

山行報告書

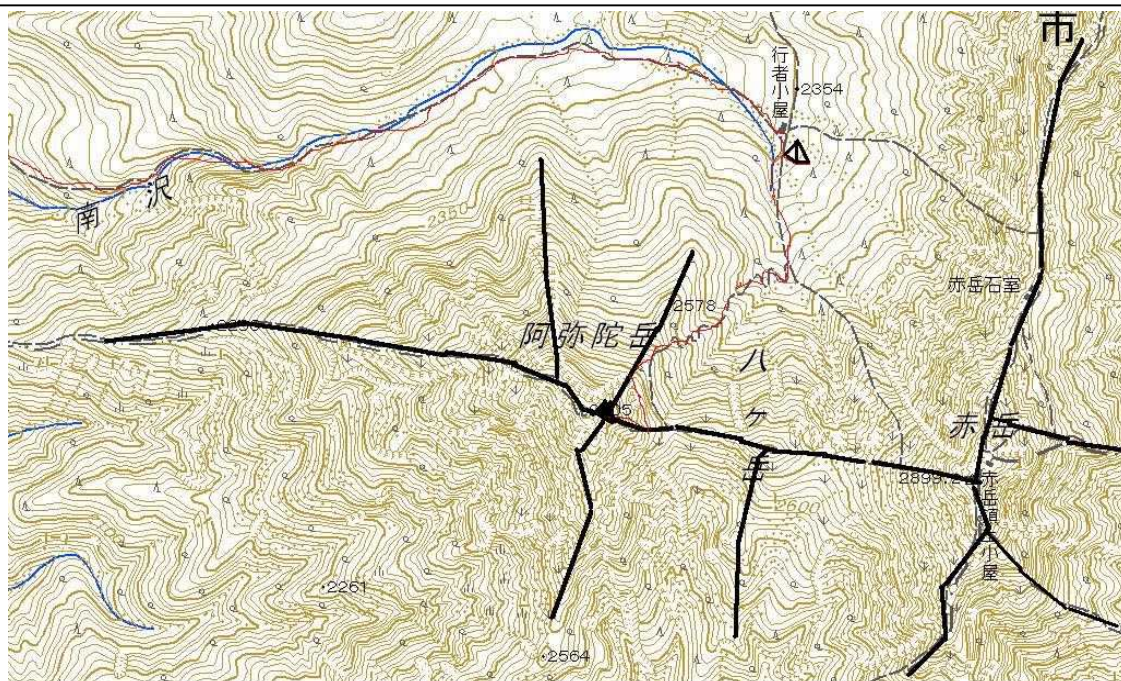
報告書作成

中根

山名 [山域]	八ヶ岳南部阿弥陀岳	目的と方法	厳冬期の阿弥陀岳登頂
登山期間	1月27日～1月28日	山行形態	1泊2日
参加人数	2名		

行動記録 1月27日 6時30分集合－国道153経由－8時30分 飯田IC - 駒ヶ岳SA休憩－諏訪IC - 11時15分 美濃戸口、12時発－13時 美濃戸－16時20分 行者小屋(テント泊)
 1月28日 6時起床(行者小屋は休業であるがトイレは使える)7時40分発－2590m地点谷をトラバース－9時30分 コル(2700m) - 10時40分 阿弥陀岳頂上(20分休憩) - 11時30分コル－13時 行者小屋(1時間休憩) - 15時40分 美濃戸－16時20分 美濃戸口－18時 諏訪IC - 19時 飯田IC - (治部坂で温泉に入る) - 21時頃岡崎

概念図



日誌 最初はK氏の渡航日が月曜日だったので金曜日発の予定でしたが火曜日になったため、土曜日出発に切り替えた。金曜日晴天でしたので、翌日の天気を心配したが曇り時々小雪で順調に美濃戸に向った。しかし最後の坂でスタックしてしまい、チェーンを着け登山口的美濃戸口に到着した。ここで行動食を取り、行者小屋に向けて出発したが、2時間ほど歩くとペースが落ち、体力のある、K氏には申し訳なく小雪の中16時40分にやっと着いた。夕食は私が準備したキムチ鍋で温まり、就寝した。朝5時を過ぎると他のテントからの会話が聞こえてくるが予定通り6時起床した。行者小屋のトイレが使えることが分かり順番待ち、結局出発は7時40分と計画より遅れた。おかげで阿弥陀に向かう他のパーティのトレースをたどり進むが、全てのパーティーが北稜を目指していることが分かる。夏道はほぼ沢の最下部を通っているが雪崩の危険を感じ、沢の西側を登攀し沢の最終点でトラバースすることにした。しかしこのコースは雪が柔らかくラッセルに通っているが80%ほどK氏に依存し、やっと夏道にある露出したボールを越し、コルの到着する。稜線の雪は以外に多くしかも比較的柔らかい雪で滑落に心配が無いため、ロープの確保なしで登攀することにする。ここからは比較的固い雪面を探しながら私がリードし頂上を目指す、以外にも北稜からのパーティー(アンザインしている)が下から登ってくる。結局我々が当日初登頂することになる。素晴らしい展望を楽しんでから、下りは安全第一、スタック方式を採用しK氏にザイルワークを指導する。問題があったのは45mのロープ一杯に使うと、2人の距離が最大90m近くにもなり、地形によっては見通せないことで、ザイルのテンションでコミュニケーションを取ったが確実ではなく、無線の必要性を感じた。この時点で一度K氏が2mほど滑ったが難なく停止させることができた。コルに着くと頂上付近から別のパーティーが下ってくる、我々はこちらからはコンテで下る、我々より先に下山したパーティーのトレースもあったが、赤旗の回収が有る為、来た道を下山した。行者小屋ではすでにテントは10張り以下になっており約1時間くらい掛けて行動食を取りテントを撤収した。下りは順調に、10人を越す大きいパーティーを抜かさせていただき、16時20分には美濃戸口に着いた。当分温泉に入れないK氏の希望で昼神温泉に入ることにしたが、丁度定刻の7時を過ぎしかたなく治部坂、宿木の湯で体を休め帰路についた。

感想 以前から冬の阿弥陀に登ろうと、去年の7月に下見を終えていたので、イメージ通り登ることが出来た。最初北稜から登るパーティーのトレースを使ったので頂上直下の沢をトラバースをしたが(夏道もほぼ同じ)最初から沢の左岸を直登の方が安全だった可能性がある。しかしこの場合ラッセルがさらに厳しくなる。沢の最低部は過去に生じたと思われる小規模な新雪雪崩の影響で雪が締まっており、比較的楽に登ることができる、しかし我々は最低部は危険と判断し、縁を登攀した。またトラバースする時は10mほど間隔を離し1名ずつ急いで渡るように通過した。こんど行く時は北稜に挑戦したいと思う。